

音が気になって、集中力が途切れてしまう子のために  
— 落ち着いて生活できる環境づくり —

こんな子たちです

- ・音がするとつい見てしまい、そちらに気を取られてしまう。
- ・教師が名前を呼んで注意を戻すが、何をしているのか分からなくなってしまう。

通常の学級担任



通常の学級担任が子どもを観察し、通級指導教室担当教員と支援のアイデアを話し合う。

・学級内で余分な音が出ない、また、不必要な声を出さないように工夫してみよう。

通級指導教室  
担当教員



担任

静かなときは、集中して学習に取り組めます。

担任

物を並べるのが得意で、整理整頓がよくできます。

通級担当

アイデア1

声でなく動作で合図することを学習のルールにすれば、集中が途切れずに学習できるのでは？



通級担当

アイデア2

学習に必要な物の置き場所を学習のルールに決めてみては？  
この子だけでなく、学級全体が落ち着くと思います。

担任

周囲をよく観察できる子です。友達の行動を見て真似をします。

通級担当

アイデア3

前や隣の席に、授業に取り組む姿勢の手本になる児童が座るようにすれば、やる事が分からず困る回数が減るのでは？

通級による指導では

通級指導教室は他の教室から離れた静かな場所に設置されている。  
気になる音がしたときには、決まった時間になると音が鳴るタイマーを見せ、納得させてから学習に取り組む。



タイマー

通常の学級担任がアイデアを実践

アイデア1



声でなく動作で合図することを学習のルールにしよう。



実践

静かな環境で学習するために、動作で合図することを学習のルールにした。そうすることで、不必要な指示が減った。

- ・「できました」の合図は、静かに膝に手を置いて待つ。
- ・先生に来て欲しいときの合図は、静かに左手を挙げる。



成果

静かだから集中できるよ。「できた」と言いたくなるけど、前の子が膝に手を置いているから、ぼくもそうするんだ。

アイデア2



学習に必要な物の置き場所を決めよう。



実践



算数セットの箱を机の横の通路に置くことを学級の学習のルールにした。

- ・箱の上に金属板を置き、その上に数図ブロックなどを並べる。
- ・全員で行い、指示があるまでさわらない。



成果

置き場所があると整頓したくなるよ。みんなが箱の上に置いて勝手にさわらないから、気になる音がなくて、集中できるんだ。

アイデア3



周りに手本となる児童が座るように座席を工夫してみよう。



実践



座席の配置を工夫した。

- ・前と両隣に手本となる児童が座るようにする。
- ・多くの子の動きが見えないように、前から2～3列目に座る。



成果

周りの子を見れば何をしたらいいか分かるから、困って後ろを見たり、席を立ったりすることが減ったよ。

ポイント



外からの音の刺激にすぐに反応してしまい、たくさんの音の中から教師の声を選択して聞き続けることが苦手な子に対しては、刺激を減らして必要な音を聞き取りやすくする工夫や、視覚情報を手掛かりにして活動の確認ができる工夫をすることで、教師の指示が伝わるようになった。

## 聴覚過敏の子どもが音楽の授業を楽しむために

### — 音楽科担当教員と連携した授業づくり —

こんな子たちです

- ・「リコーダーはうるさいから嫌」と音楽室から逃げ出してしまう。合唱になると耳をふさいで歌わない。
- ・ピアノの演奏を聴くことや一人で歌うことが好き。

音楽科担当教員



音楽科担当教員が子どもを観察し、通級指導教室担当教員と支援のアイデアを話し合う。

- ・障害の特性に配慮した音楽科の授業にしよう。

通級指導教室  
担当教員



音楽担当

合唱やリコーダーになると、耳をふさいで音楽室から逃げ出します。

音楽担当

ピアノを弾くとうれしそうに見ています。一人だと、楽しそうに歌っています。

通級担当

アイデア1

聴覚の過敏性が原因だと思われます。合唱やリコーダーの音の刺激が少ない場所に席を移動してはどうですか。



通級担当

アイデア2

授業の流れをあらかじめ示して、活動の合図にピアノを弾いてはどうですか。

通級による指導では

授業の流れを子どもが分かるように開始時に示している。一つの活動が終わる毎に、印（花丸）を付けている。楽しみにしている活動への見通しをもたせることで、意欲向上につなげるようにしている。

1. しんこきゅう
2. しりとり
3. よく見よう
4. どんな気持ち？
5. お楽しみ
6. 次のよてい

## 音楽科担当教員がアイデアを実践

アイデア1



合唱やリコーダーの音の刺激が少ない場所に、席を移動しよう。



実践

音楽室の横や後ろの隅など、音源から離れた位置に席を移した。合唱やリコーダーの音にイライラしなくてすむ場所を本人に探させ、苦手な音が出る時には席を自分で移動できるようにした。また、耳栓を利用してもよいこととした。



成果

音源から離れた場所に席を移して、耳栓をしたら、音楽室にいても平気になったよ。

アイデア2



授業の流れを示して、好きなピアノの音を合図にしよう。

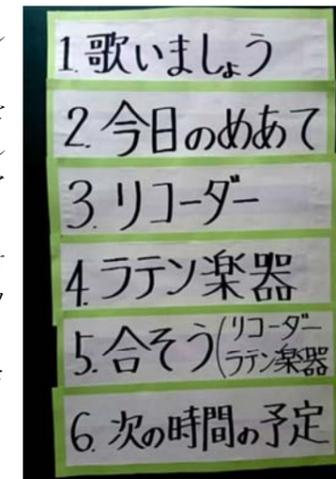


実践

授業の流れをカードで示して、黒板に掲示した。

準備や片付けなどの時間を知らせたり、活動の評価をしたりする時は、決まったピアノの曲を合図にした。

- ・リコーダーの準備や片付けの時間は、「ミッキーマウスマーチ」
- ・合唱の隊形に移動するときには、「さんぽ」
- ・「できたね」の評価は、「得賞歌」など



成果

リコーダーの時は、席を移動していいんだ。そして、片付けのピアノの曲が鳴ったら元の席に戻るんだ。

ピアノの「さんぽ」に合わせて歌う場所までみんなで歩きたいから、合唱も頑張ろうって思うよ。上手に歌えると、賞状をもらうときの曲をピアノで弾いてもらえるんだ。

次は何の曲かなって、ピアノを聞くのが楽しみだよ。

ポイント



聴覚に過敏性があり、合奏や合唱の音をうるさく感じて嫌がる子に対しては、聞こえ方に配慮した席の位置を工夫した。また、授業の流れを示すことで、見通しをもって授業に参加することができるようになった。

教師の注意を引くための行動が多い子を支えるために

— 自己有用感を育てる声かけ —

こんな子たちです

- ・授業中に教師の注意をひくために、机をたたいて音を出す。気分の乗らない学習には参加しない。

通常の学級担任



通常の学級担任が子どもを観察し、通級指導教室担当教員と支援のアイデアを話し合う。

- ・「ありがとう」と伝える場面を意識的に作り、安心できる人間関係を育てよう。

通級指導教室  
担当教員



担任

教師の手伝いをする  
ことが大好きです。

担任

正義感が強く、約束  
したことは守ろうという  
気持ちがあります。

通級担当

アイデア1

「ありがとう」「助かるよ」という言葉をかける機会を増やすために、意図的に手伝いを頼んでみましょう。



通級担当

アイデア2

クラスのルールを  
見えるところに貼っ  
て、明確にしまし  
ょう。

担任

生き物に興味があ  
ります。折り紙が上  
手です。

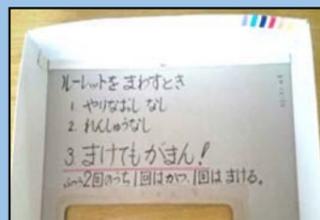
通級担当

アイデア3

好きな活動や得意な  
活動を取り入れて、授  
業に参加できるよう  
に工夫しましょう。

通級による指導では

ルールを視覚化  
して明確に示して  
いる。箱のふたの  
裏などに明記し  
て、始める前に確  
認している。



ゲームのルール

通常の学級担任がアイデアを実践

アイデア1



手伝いを頼む機会を意図的に増やそう。



実践

授業に必要な物の準備や片付け、他の学級へ物を届けるなどの教師の手伝いを頼んだ。次第に、友達にも「手伝うよ」と声を掛けて手伝うようになった。



成果

手伝うと「ありがとう」って言ってもらえるんだ。そうすると、うれしくて、また手伝いたくなるよ。

アイデア2

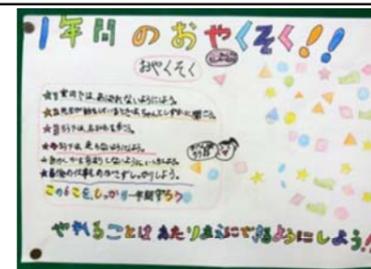


ルールを見えるところに貼ろう。



実践

クラスのルールをみんな  
で決めて、掲示板に貼っ  
た。学級のみみんなで意識す  
るようにした。



成果

どうするとよいか  
すぐ見られるから、  
僕も守ることができ  
るよ。

アイデア3



授業に、好きな活動を取り入れよう。



実践

生き物に興味があり、折り紙や絵を描くことが好きなので、理科の学習では、ホワイトボードに絵を描かせ、みんなに発表する活動を取り入れた。授業の中に活躍できる場を作ることで、自己有用感を高めた。



成果

先生が「口が上手に描けたね」って褒めてくれたんだ。みんなに発表したら、拍手をしてもらったよ。僕にもできるんだな。

ポイント



教師の気を引きたくて、不適切な行動をする子どもに対しては、学級のルールを掲示板に貼って具体的に示すことで、正しい行動への意識が高まった。また、良いことをして教師と関わる機会を作ったり、好きな活動を学習に取り入れ、活躍した場面をピンポイントで褒めたりすることを意図的に増やすことで、自己有用感が高まり授業に参加することができるようになった。

書字に苦手さのある子のために  
— 子どもの実態に合わせた配慮 —

こんな子たちです

- ・平仮名と片仮名の習得が困難である。
- ・文字を書き写すことに時間がかかる。

通常の学級担任



通常の学級担任が子どもを観察し、通級指導教室担当教員と苦手さの原因を探る。

・困っているAさんとBさんを観察して、どうして困るのかを把握しましょう。

通級指導教室  
担当教員



担任

AさんとBさんだけ、平仮名を書くのに時間がかかるんです。

担任

Aさんはゆっくりと手本を見て書きます。文字の書き間違いはありません。

通級担当

アイディア1

困った時にどうするか、それぞれの様子を細かく見てみましょう。



通級担当

アイディア2

Aさんには、手本を見せ、書く時間を確保するように配慮しましょう。

担任

Bさんは、平仮名をすべて覚えておらず、誤字や脱字が多いです。

通級担当

アイディア3

Bさんは、文字を思い出すヒントとして、50音表を使いましょう。

通級による指導では

音と文字が一致するように50音表を使用して練習する。50音表を使えるようになったところで、自分の手元の表を見て、自分で書くことができるように練習する。

文字を思い出すことが苦手な子は、50音表をヒントにして書いている。

わ	ら	ま	は	な	た	さ	か	あ
り	み	ひ	に	ち	し	き	い	
る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
れ	め	へ	ね	て	せ	け	え	
を	ろ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

通常の学級担任がアイディアを実践

アイディア1



書けないときの様子を細かく観察してみましょう。



観察

Aさん：連絡帳を書くときには、連絡帳を持って教卓のところまで来る。自分の席よりも見やすいと言っている。  
Bさん：「『る』ってどう書くの」などと、一字一字の書き方を質問してくる。



成果

Aさんは見え方に苦手さがあるかもしれない。Bさんは、文字の想起が苦手なのかもしれない。

アイディア2

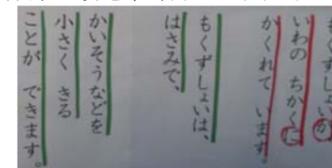


Aさんが自分で手本が分かるように、工夫しましょう。



実践

教科書を拡大して黒板に貼り、ワークシートも教科書と同じ物にした。色の線を内容毎に引き、着目しやすくした。



成果

ワークシートに色を付けたから、教卓まで行かなくても何を書いたらいいか、自分で分かるよ。先生が時間をくれるから僕にも書くことができたよ。

アイディア3



Bさんの想起のヒントに、50音表を使いましょう。



実践

Bさんは、50音を順に言うことができ、平仮名の表から文字を探すことができるので、文を書くときには、手元に50音表を置いて、文字が分からない時には自分で探して書くようにした。片仮名も同様に表にして、自分で探せるようにした。



成果

50音を順番に言いながら、50音表を見ると文字が分かるよ。表は筆箱にちょうど入るから、家でも使えるんだ。

ポイント



書字が苦手といっても、それぞれ原因が違っている。手本を見やすい位置に用意すること、時間を十分に確保することが大切である。

安心して小学校生活をスタートできるように  
— 小学校生活の事前体験 —

こんな子たちです

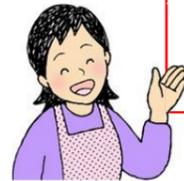
- ・初めてのこと、初めての人、初めての場所が苦手で行動の切り替えができなくなってしまう。
- ・行事の練習が続くとストレスで体調を崩してしまう。

保育園障害児  
保育担当

保育士から保育園での様子を聞きながら、特別支援教育コーディネーターと支援の方法を話し合う。

・この子が安心できる人を入学前に学校の中につくろう。  
専門性のある通級指導教室担当教員が、適任であろう。

小学校特別支援教育  
コーディネーター



通級指導教室  
担当教員



保育園

絵本を読むのが大好きです。  
文字にも興味があります。

通級担当

アイデア1

図書館の探検をしましょう。大好きな本を探すために、何回か学校へ来てください。その時に少しずつ学校見学もしましょう。

保育園

かけっこが得意です。  
おにごっこが大好きです。

通級担当

アイデア2

学校の校庭で通級指導教室担当教員とおにごっこをしましょう。保育園の降園の際に、学校へ寄って遊ぶのはどうでしょう。



保育園

初めてのことに、友達の行動を見て、安心だと分かると活動し始めます。

通級担当

アイデア3

小学校の授業体験をしましょう。通級指導教室担当教員が手本になるので、真似をしながら授業に参加してみましょう。

通級による指導では

通級指導教室は、安心して自分を表現できる場。子どもが大好きな活動を一緒に行うことで、安心できる関係を作ることが大切になっている。そうすることで、子どもはいろいろなことにチャレンジできるようになる。



通級指導教室担当教員がアイデアを実践

アイデア1

小学校の図書館探検をしよう。



実践



何度も図書館探検をしながら、校内を見学する機会を作る。

1年生の教室、特別支援学級、通級指導教室、音楽室、保健室



成果



小学校の図書館に行くのが楽しみになったよ。1年生の教室も覚えたよ。お兄さんが本を読んでくれたよ。

アイデア2

おにごっこをして、通級指導教室担当教員と安心できる関係を作ろう。



実践



保育園の帰りに、保護者と小学校に寄ってもらうようにした。

・通級指導教室担当教員は校庭で待っており、授業後の15分間ぐらい、1年生の教室前の遊具やおにごっこで遊んだ。

成果



先生とおにごっこは楽しいよ。仲良しになったんだ。先生と一緒になら安心できるよ。

アイデア3

小学校の授業体験をしよう。



実践



教師の真似をしながら、小学校の授業体験をする。  
・苦手な場面…どうしたらよいか対応策を伝える。  
・得意な場面…できることを本人に分かるように伝えて自信につなげる。

成果



分からないときは「見ています」と言って、見学すればいいんだね。褒められてうれしかったよ。

ポイント



初めてのことが苦手な小学校入学に対する不安が大きい子に対しては、安心できる人や安心できる場所をあらかじめ作った。入学式の場所や席などの事前の体験をすることで見通しがもてるようになり、入学後に元気に学習できるようになった。また、保護者にも安心してもらうため、「みみたのサポートファイル（個別の支援計画）」を活用しながら、教育相談を随時行った。

安心して中学校生活をスタートできるように  
— 小学校から中学校への移行支援 —

こんな子たちです

- ・中学校生活に対するイメージがもちにくく、不安が大きい。
- ・困ったときに自分から言い出すことが苦手。

小学校  
特別支援教育  
コーディネーター

小学校・中学校の特別支援教育コーディネーターと通級指導教室担当教員とで支援の方法を話し合う。

・困ったときに相談できる人を、入学前に中学校の中にもつこう。

中学校  
特別支援教育  
コーディネーター

通級指導教室  
担当教員

小学校

手本を見せながらゆっくりと説明すれば分かります。

小学校

困った時に相談するのは苦手ですが、担任や仲のいい子に言えるようになりました。

中学校 アイディア1

個別に、ゆっくりと中学校の授業を見学させて、授業のイメージをもたせましょう。

小学校

「ありがとう」を素直に言える、優しい子です。こつこつ努力する子です。

通級担当 アイディア3

自分の良いところを認めることができるように、小学校卒業までに自己肯定感を高める指導をしましょう。

通級による指導では

通級指導教室では、その子の良いところを認め、苦手なことには対応策を一緒に考えている。

小学校卒業前には、自分を見つめ直させ、これからのことを一緒に考えている。また、希望があれば、中学校でも通級による指導を受けることができる。

小・中学校の特別支援教育コーディネーター、通級担当がアイディアを実践

アイディア1

個別に中学校の授業を見学する。

実践

小・中学校の特別支援教育コーディネーターが連携し、入学説明会の前に、個別に中学校の授業見学をする場をもつ。

- ・本人のペースに合わせて、具体的に説明をする。
- ・各教科の授業、部活動、時間割、持ち物などを見る。

成果

勉強は難しそうだけど、みんな楽しそう。教科書は厚くて文字も多くて不安だったけど、授業を見たら安心したよ。

アイディア2

中学校の教師と安心して相談できる関係を作る。

実践

- ・入学前に、親子で中学校の教育相談を受ける機会を作る。
- ・困ったら、いつ誰に相談したらいいか具体的に話し合う。
- ・「みみたのサポートファイル（個別の支援計画）」を活用して、小学校で行ってきた支援の情報を伝える。

成果

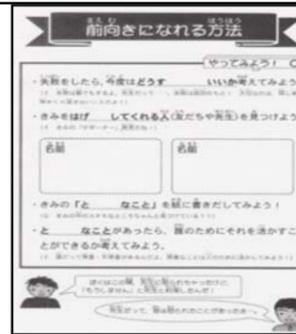
困ったら相談できる先生が分かったよ。お母さんも話してくれたから安心だな。

アイディア3

自分の良いところを認めることができるように支援する。

実践

- ・自分を肯定的にとらえる学習をする。（出典：「LD/ADHD 高機能自閉症等の子どものための指導教材集第1集」日本LD学会編）
- ・苦手なことへの対応策を一緒に考える。



成果

苦手なこともたくさんあるけど、友達がいるから大丈夫だよ。困ったら、友達や担任の先生に聞けばいいんだ。僕は僕でいいんだね。

ポイント

見通しがもちにくく、中学校生活に対して不安の大きい子に対しては、中学校の教師との関係を事前に作り、相談できる教師を知ることで、困ったときに自分で援助を求める力を付けた。保護者に対しては、中学校の特別支援教育コーディネーターと連携しながら「みみたのサポートファイル（個別の支援計画）」を活用して教育相談を行うことで、支援をつないでいる。

保育園から高等学校まで支援情報をつなぐために

－ 武豊町の保・小・中・高の連携 －

こんな子たちです

・進級や進学への不安が大きい子。

保育園障害児 保育担当  
 小学校 特別支援教育 コーディネーター  
 通級指導教室 担当教員  
 中学校 特別支援教育 コーディネーター  
 高等学校 特別支援教育 コーディネーター



保育園の担当者、小学校・中学校・高等学校の特別支援教育コーディネーター、教育委員会担当者として、引継ぎや連携の方法を話し合う。



教育委員会担当者

アイデア1

支援者同士がつながることが必要ですね。



アイデア2

保・小・中・高と一貫した支援をしていくために、「みみたのサポートファイル(個別の支援計画)」を活用しましょう。

アイデア3

高等学校の入学式前に、中学校での支援の情報があるといいな。

通級指導教室担当教員も連携の輪に

特別な教育的支援を必要とする子どもの多くは、通常の学級にも多く在籍している。武豊町の通級指導教室担当教員は、発達障害等の子どもの支援を中心に行っている。また、巡回指導で小・中学校を兼務しているため、学校間の連携や移行支援にも欠かせない存在となっている。また、学校間の支援情報の引継ぎには「みみたのサポートファイル(個別の支援計画)」を活用している。



アイデアをみんなで実践

アイデア1



支援者同士がつながろう。

実践



武豊町教育支援委員会実務者会議を、年2回、教育委員会主催で開き、研修や情報交換等を行っている。  
 参加者：保育園障害児保育担当、小・中学校特別支援教育コーディネーター、通級指導教室担当教員、町内高等学校特別支援教育コーディネーター、町保健センター担当、町内障害児関係事業所担当者等

成果



担当者がお互いに顔を合わせることで、具体的に連携の話をするようになった。高等学校でも支援が可能なることを保護者に伝えることができた。

アイデア2

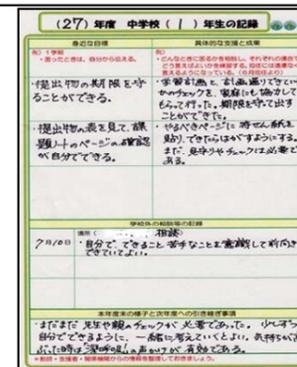


「みみたのサポートファイル」を活用して連携しよう。

実践



美浜町、南知多町、武豊町の3町では、「みみたのサポートファイル(個別の支援計画)」を乳幼児期から作成している。中学校から高等学校へも、このファイルを引き継ぐことにした。



成果



保護者と本人の同意を得てサポートファイルをつなぐことで、その子の成長の記録が分かるようになった。ファイルを連携のツールにすることで、ライフステージを通した切れ目のない支援が可能になった。

アイデア3



高等学校の入学式前に、中学校での支援の情報を引き継ごう。

実践



中学校と高等学校の情報の連絡会を春休み中に行った。  
 隣の市の高等学校へは、春休み中に「みみたのサポートファイル」を届けて支援の引継ぎを行った。

成果



入学前に、生徒の情報を伝えることで、高等学校でも入学式前から必要な支援や配慮をすることができるようになった。

ポイント



これまで中学校での支援情報が高等学校へ伝えられることが少なかったが、関係機関と連携し、高等学校への移行支援をすることで、入学前から必要な支援や配慮を受けることができるようになり、高等学校での安心な居場所をより早く作ることができるようになった。